

ま え が き

徳島県中学校教育研究会数学部会の会員の先生方におかれましては、日頃より日々の教育実践に精進されていますことに、心より感謝と敬意を表します。

平成 19 年 1 月に出された『教育再生会議第一次報告』では、「ゆとり教育」を見直し学力を向上させるための提言として、「基礎学力強化プログラム」の中では授業時数の 10% 増加、基礎・基本の反復・徹底と応用力の育成、薄すぎる教科書の改善等が述べられています。さらに、「伸びる子は伸ばし、理解に時間のかかる子には丁寧にきめ細かな指導を行う」では、子どもたち一人ひとりの可能性を引き出すために、基礎・基本の徹底の上に、それぞれの能力や興味・関心、進路希望等に応じ、落ちこぼれる子どもをつくらず、子どもの能力を最大限に伸ばすきめ細かな教育が重要であることも書かれています。

私たち現場の教師は、決して手を拱いているわけではありません。生徒たちに真正面から向き合い、基礎・基本の確実な定着とその向上を目指して日々努力し、教材研究に余念がありません。しかし、学校現場では、限られた人数での仕事は多岐にわたり、校務は日々多忙を極めています。そのため、教材研究の時間確保が一段と難しくなっているのも紛れもない事実です。

生徒たちに基礎・基本の確実な定着とその向上を目指すにあたって、いかにして興味や関心をもたせるかということが課題になります。そこで、本研究委員会では、「単元導入に着目した教材研究（実践事例）」を研究テーマとして実践研究を進め、その成果をまとめました。実践事例には、指導案だけでなくワークシートや授業後の考察等も掲載されています。授業実践を通しての課題等を私たち数学科教師が共有することによって、今後の授業の工夫・改善につながってくれることを大いに期待しています。さらに、巻末には、昨年度より本研究委員が取り組んでおります、e ラーニングについての紹介もさせていただきましたので、ぜひご一読ください。

本誌は、各都市代表の研究委員の先生方のご協力により、研究・編集されました。この研究誌が、日々切磋琢磨されている先生方にご活用いただくことで、様々な課題解決の糸口となってくれることを願っています。

終わりにになりましたが、本誌編集にご尽力いただきました研究委員の先生方、事務局の先生方に厚く御礼を申し上げ、発刊によせる言葉といたします。

平成 19 年 4 月

徳島県中学校教育研究会数学部会
会 長 森 本 正 義

目 次

(第1学年)

- 1 方程式(1年)加茂名中学校 重清 久世1
- 2 比例と反比例(1年)城東中学校 松本 悟5
- 3 平面図形(1年)上那賀中学校 杉谷 操13

(第2学年)

- 4 一次関数(2年)国府中学校 川尻 隆之17
- 5 図形の性質と証明(2年)応神中学校 吉成 正士21
- 6 確 率(2年)藍住中学校 吉本 一之25

(第3学年)

- 7 関数 $y = ax^2$ (3年)勝浦中学校 磯部 茂仁29
- 8 図形と相似(3年)北灘中学校 鈴江 美紀33
- 9 三平方の定理(3年)脇町中学校 森脇 博文37
- 10 中学生のための数学科 eラーニング(2)

徳島県立総合教育センター 情報教育課

指 導 主 事 香川 朗40